

愛知民報

2017年
12月17日
第2379号

発行所 愛知民報社
〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号
愛知あかつき会館内
☎(052)251-2925 FAX(052)261-6063
定価 月400円 郵送料164円 1部100円
毎週日曜日発行(第5日曜日は休刊)
1966年7月31日第三種郵便物認可

週刊

愛知民報を
周りの人に

総選挙

共闘再構築

市民連合@愛知、市民と野党をつなぐ会@愛知の街頭宣伝で声援に応える(左から)山本太郎自由党共同代表・参院議員、福島みずほ社民党副党首・参院議員、近藤昭一立憲民主党副代表・衆院議員、本村伸子日本共産党衆院議員。11月12日、名古屋駅前



すやま候補先頭に

「安倍9条改憲反対3000万署名」への協力を訴える(左から)青木ともこ名古屋市議、すやま初美参院愛知選挙区予定候補、本村伸子衆院議員ら。12月9日、名古屋市西区



わしの恵子愛知県議=3月3日、愛知県議会本会議



しもおく奈歩愛知県議=9月29日、愛知県議会本会議

住民要求実現

日本共産党県議団を含むIR(統合型リゾート)施設誘致の中止を求めました。県民運動と共産党県議団の論戦で、県営住宅の維持修繕費の増額、特別支援学校の全教室の空調化、軽・中等度難聴児への補聴器購入助成などが実現しました。

名古屋市議会の日本共産党は、12議席の力を生かして住民要求実現の力になつていきます。党議員の質問で、新堀川の悪臭を根絶するためにヘドロを除去する予算や、中学生の入学準備金の入学前支給などが実現しました。



日本共産党は、安倍暴走政治への審判、暮らし・福祉優先の政策実現など攻勢的な論戦を繰り広げ、有権者の共感を広げました。

都議選勝利に貢献



現職が3選を果たした江東区では、愛知の青年が電話かけやビラ配布に取り組みました(写真)。

地方選で前進

今年の県内の地方選挙で日本共産党は、6月の西尾市議選で改選1議席から2議席に前進(写真)。南知多町議選では、新人が引退議員の議席を継承。10月の新城市議選では現職の議席を確保しました。

2017年 安倍暴走政治と対決

日本共産党、逆流止め展望開く

2017年は、9条改憲、社会保障大改悪、労働法制改悪、消費税10%増税をねらう安倍自公政権と、平和・生活向上を願う国民・県民の運動とのげい対決となりました。総選挙では、市民と野党の共闘が新たな前進を見せ、県民運動では、安倍暴走阻止の共同が広がりました。1面で日本共産党の活動、4面で県民運動を紹介しします。

10月の第48回総選挙は、支配層が窮地の安倍政権を維持するため、日本共産党は、民進に「総がかり」で野党の希望の党への合流を分断し、改憲2で崩壊の危機にひんした。

大政党化をねらった謀略的な選挙でした。日本共産党は、民進の希望の党への合流を分断し、改憲2で崩壊の危機にひんした。

日本共産党は、この総選挙で議席を後退させた原因は「力不足にある」と分析。2019年の参院選と統一地方選挙での新たな躍進をめざし、同党の「綱領を語り、日本の未来を語りあう集い」の開催と党員拡大を根幹にした党勢拡大に力を入れています。

日本共産党は、安倍暴走政治への審判、暮らし・福祉優先の政策実現など攻勢的な論戦を繰り広げ、有権者の共感を広げました。

た野党共闘の再構築に全力をあげ、その結果、全国で市民と野党の共闘勢力は38議席から69議席に躍進しました。11月に刈谷市内で開催された革新懇全国交流会で、志位和夫共産党委員長は「逆流を止め、将来の展望を開いた」と総選挙の歴史的意義を強調しました。

日本共産党は、この総選挙で議席を後退させた原因は「力不足にある」と分析。2019年の参院選と統一地方選挙での新たな躍進をめざし、同党の「綱領を語り、日本の未来を語りあう集い」の開催と党員拡大を根幹にした党勢拡大に力を入れています。

今年2日投票の東京都議選で日本共産党は、17議席から19議席に躍進しました。一方、自民党は59議席から23議席に大後退しました。愛知の共産党組織が応援に入った江戸川、江東、目黒、北多摩4区の各区は全勝。

他の市町村の共産党議員団も、子ども医療費無料化拡大など暮らし・福祉充実の大きな成果をあげています。

4面に続く